

試料・情報分譲申請用研究計画書(概要)						
研究番号	2018-0040		利用するもの	・ゲノム情報 [1. 2. 0 (2KJPN) 全ゲノムリファレンスパネル(2KJPN) 対象者 1. 3. 1 (TMM 23K) 平成25年度 Japonica v2/v1/ Omni 2. 5/ Omni ExpressExome解析対象者 のうちゲノムデータがあり条件に合うものを最大で22800人分] ・質問紙項目 ・基本情報 ・検査データ		
主たる研究機関		筑波大学		分担研究機関	なし	
研究題目	アレルギーおよびその関連疾患の発症要因の解明			研究期間	2019年 4月 14日 ~ 2021年 3月 31日	
実施責任者	野口 恵美子		所属	筑波大学医学医療系	職位	教授
研究目的と意義	アレルギー疾患は遺伝的要因と環境要因が発症に関連する多因子疾患です。 本研究ではアレルギー等の免疫関連疾患の臨床情報、臨床検査値とゲノム情報を解析し、アレルギー疾患と関連する遺伝子を同定するための研究を行います。					
研究計画概要	アレルギー疾患は現在では国民の約半数が罹患しています。アレルギー疾患は子供のころに発症することが多く、適切に病気を発見、治療をしていくことと、予防法を開発していくことが求められています。ヒトはダニ、花粉、食べ物、ペットのふけ等、様々なものに対してアレルギー反応を起こしますが、そのなりやすさはそれぞれのヒトによって異なります。 筑波大学では喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎や食物アレルギー等のアレルギー疾患について、発症に関わる遺伝要因を同定する研究を行ってきました。今回の研究では東北メディカル・メガバンク機構のコホート研究参加者さまのゲノム情報とアレルギーに関係している臨床情報(喘息の有無やIgE値など)を用いて、どの遺伝子がどのようなアレルギー疾患関連の症状と関連しているのかについて調べます。					
期待される成果	アレルギー疾患は国民の多くが罹患し、東北メディカル・メガバンクのコホート研究(三世代コホートの妊婦アレルギー検査)の調査結果においても、スギ特異的IgE抗体陽性率は54.2%と報告されています。この研究により、アレルギー疾患発症関連遺伝子を見つけ、どのような臨床情報や環境要因と関連しているかを明らかとすることができれば、被災地の皆様や国民全体のための、アレルギー疾患のよりよい治療法や予防法につながることを期待されます。					
これまでの倫理審査等の経過および主な議論	筑波大学医学医療系医の倫理委員会(ヒトゲノム・遺伝子解析研究)承認済み(通知番号第284号)					
倫理面、セキュリティ面への配慮	本研究は筑波大学における「医学医療系医の倫理委員会(ヒトゲノム・遺伝子解析研究)」において承認を受けております。更に「ヒトを対象とする研究の倫理に関する規則」、ToMMoセキュリティポリシー、別途締結する研究契約を遵守した上で研究を行います。					
その他特記事項						
※公開日		令和1年9月24日				